

めざせ一等級比率 95%!  
良食味・高品質で安定収量を!

第3号  
令和7年7月  
JA魚沼北魚沼基幹農センター

# 米づくりV作戦



高温対策の実践で  
品質確保!

北陸地方1か月予報(06/28~07/27)では、平均気温は高い確率80%と予測されており、出穂期の早まりや出穂前の葉色低下が懸念されます。また、降水量は少ない確率50%と予測されており、水不足が懸念されます。

## 1 現在の生育状況等 (6/30調査)

○ 現在のコシヒカリの生育状況は、指標値と比較し「草丈は並」、「茎数は多い」、「葉数はやや早い」、「葉色はやや薄い」です。  
※生育調査は相川・和南津・西川口・田麦山の4カ所平均

## 2 水を大切に!

- ・中干し以降は、間断灌水から飽水管理を徹底しましょう。
- ・異常高温、フェーン時は速やかに湛水し障害の発生防止に努めましょう。
- ・用水量に限りがありますので、前もって入水を行うなどし、用水量が不足しないように地域で工夫しましょう。
- ・出穂前後が稲の一生で一番水が必要な時期です。できる限り水を無駄にしないように工夫しましょう。

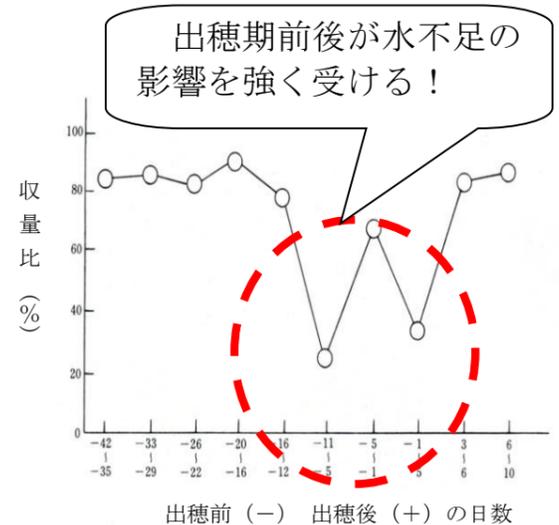


図 稲の干害を受けやすい時期 (高井) (新潟県水稻栽培指針より作成)

## 3 出穂期は平年より2日以上早まる予想

- ・川口地域(7月1日現在)の幼穂形成期および出穂期予想は、今後も高温が予測されているため、平年より2日以上早い予想です。
- ・コシヒカリ出穂期予想(7月1日現在)

5月10日田植えで出穂期は8月1日、

5月20日田植えで出穂期は8月4日

- ・ほ場による出穂期のバラツキが大きいため、必ず各圃場で幼穂長の確認を行い、出穂期予測行い適期に穂肥を施用しましょう。

表5 幼穂長と出穂前日数の関係(コシヒカリ)

出穂前日数	幼穂長
23日	0.1cm
20	0.2
18	0.5~1.0
12	4.0~6.0

## 4 穂肥診断(分施肥体系:穂肥施用時に判断する方法)

### (1) 1回目の穂肥(幼穂長1cm:出穂18日前)

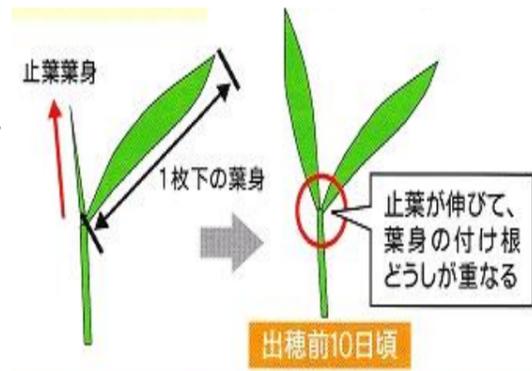
※草丈の長いほ場等では、倒伏防止のため1回目の穂肥を慎重に判断しましょう。

★穂肥1回目10アールあたり施用例(越後の輝き有機50穂肥 窒素成分12%で計算)★

葉色(単葉) 草丈	SPAD値 32未満 葉色板 3.5未満	SPAD値 32~34 葉色板 3.5~4.5	SPAD値 35以上 葉色板 4.5以上
	70~75cm	早めに多めに施用 出穂20日前に12kg(N1.4kg)	基準どおりに施用 出穂18日前に8.4kg(N1.0kg)
75~80cm	基準どおりに施用 出穂18日前に8.4kg(N1.0kg)	少なめに施用 出穂18日前に6.0kg(N0.7kg)	遅めに少なめに施用 出穂15日前に6.0kg(N0.7kg)
80cm以上	少なめに施用 出穂18日前に6.0kg(N0.7kg)	施用しない	施用しない

## (2) 2回目の穂肥（幼穂長8cm：出穂10日前）

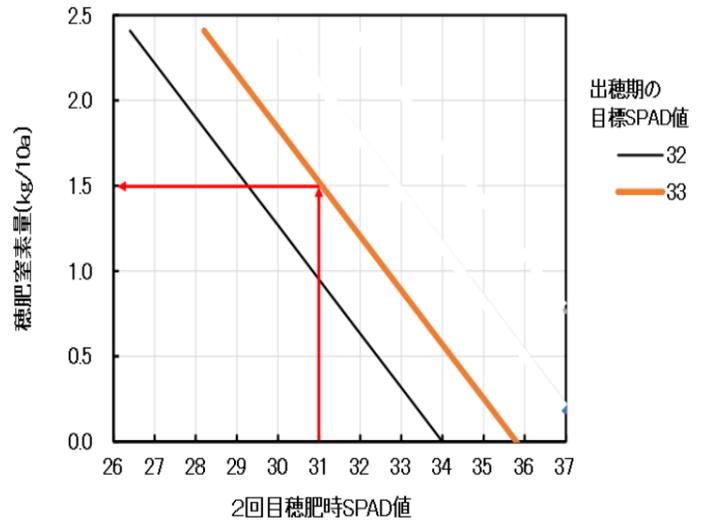
- ・確実に施用し、高温登熟に備えましょう。
- ・出穂10日前のめやすは、幼穂長が8cmくらい、または、止葉と1枚下の葉の付け根部分(葉耳)が重なった時期です。(右図参照)
- ・コシヒカリの2回目の穂肥量のめやす  
(出穂期の目標葉色に誘導するための2回目穂肥診断)



**【診断方法】**

- ① コシヒカリの2回目穂肥時期（出穂10日前）のSPAD値を測定する。
- ② SPAD値を下図の横軸「2回目穂肥時SPAD値」にあてはめる。
- ③ 「2回目穂肥時SPAD値」の縦線が「出穂期の目標SPAD値（32～33のいずれか）」の線にぶつかる位置が2回目の穂肥窒素量となる。

～診断例～  
 2回目穂肥時SPAD値：31 出穂期の目標SPAD値：33  
 ⇒穂肥窒素量：1.5 kg/10a



※基肥・穂肥ともに有機質50%肥料を用いた分施肥系の試験結果に基づいて作成  
 ※5割減栽培の場合、基肥と窒素の化成窒素の合計が3.5kg/10a以内になるよう注意する

## 5 出穂期以降に高温が予想される場合

### (1) 分施肥系は3回目の穂肥を施用する

表【分施肥系】3回目穂肥のめやす (標準的な地力のほ場)※

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期3日前の葉色 SPAD値31以下のとき	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a以下	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前の葉色 SPAD値33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分1kg/10a	有機100%肥料

### (2) 全量基肥栽培は追加穂肥を施用する

表【全量基肥体系】追加穂肥のめやす

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期までの葉色 SPAD値32～33を下回ると予想されるとき	出穂期10日前まで 窒素成分1kg/10a	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期10日前頃の葉色 SPAD値30以下のとき	出穂期10～5日前頃に 窒素成分2kg/10a	有機100%肥料

## 7 病害虫対策

### 斑点米カメムシ類

- ・高温によりカメムシ類の多発生が懸念されます。斑点米の被害軽減を図るため、畦畔・農道の除草は、イネ科雑草が結実しない間隔(約3週間)で行いましょう。
- ・また水田内雑草(ヒエ、ホタルイ等)を早めに除去しましょう。

### あぜ道研修会のお知らせ 7月14日(月)

#### 【中干し終了後水管理・穂肥について】

講師：長岡農業普及指導センター小千谷分室

和南津会場 13:00～『下島水道水源地跡』

西川口会場 14:30～『原田記念碑前』

相川会場 16:00～『強清水十字路』

※時間が変更となっておりますのでご注意ください

～農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな水分・塩分の補給や休憩が大切です～

J A 魚沼北魚沼基幹農センター ☎ 025-793-1770